

「令和4年度 学校に関するアンケート」結果と分析

1. 実施について

- (1) 実施時期 令和4年12月8日～12月19日
- (2) 実施方法 アンケート調査(保護者16項目、教員24項目、行政12項目)
- ①一斉メール配信システム「eメッセージ」によるアンケート配信・自動集計
 - ②事前にアンケートを取り、必要な方は紙媒体(プリント)で配付・回収
- ※昨年度は保護者15項目であったが、新設の項目を1つ追加した。
- (3) 回答項目 「Aよくあてはまる Bあてはまる Cあまりあてはまらない
Dまったくあてはまらない Eわからない」の5項目
- (4) 回収率 保護者 82%(+2ポイント)
- 内訳: 小90%、中80%、高71%
- 教職員 98%(-1ポイント)
- 内訳: 小100%、中97%、高96%、行政100%
- (5) 分析方法 回答中ABを肯定的な意見、CDを否定的な意見として分析した。

2. 概要

保護者対象のアンケートでは、今年度は16項目で実施した。新設を除く15項目に関しては、昨年度と同様の内容で行った。回収率については昨年度の80%に比べると2ポイント増加した。回答結果については、肯定的意見が90%以上の項目が4項目あった(昨年度より1項目減)。また、新設「学校は1人1台端末を効果的に活用している」の項目以外で、5%以上の増減が3項目あった。なお、保護者全体の「肯定的評価」の全体平均は、79.25%である(-4.4ポイント)。

教員対象のアンケートでは、昨年度と同じ合計24項目となっている。回収率は、全体としては98%と昨年度より-1ポイントとなっている。回答結果については、大きく変化の見られた項目(5ポイント以上)が3項目あった。なお、「行政対象」のアンケートは、「教職員対象」を「教員」と「行政」に分けた12項目で実施し、教職員全体として合算している(これまで行政の回答の多くは「E:わからない」を占めており、「行政対象」の12項目を作成している)。教職員全体の「肯定的評価」の全体平均は、75.3%(+0.5ポイント)であった。

3. 結果と分析

☆以下の文書中「0%」については、注釈がなければ各項目の肯定的意見の割合(回答A+B%)となる。また「±□ポイント」は、昨年度と比較した数字になる(例:昨年度80%→今年度83%の場合、+3ポイント)。

(1) 学校に対する意識に関するもの

保護者は「1:子どもは、学校に行くことを楽しみにしている」の項目で81.3%(-1.5ポイント)と、昨年度と比べると若干減少している。さらに、児童生徒や保護者の願いに応えられるよう取り組んでいく。

(2) 児童・生徒指導に関するもの

「2:学校の児童生徒指導の方針に共感できる」について、保護者からは88.1%(-1.4ポイント)と若干の減少はあるが、一定の評価をいただいている。また、「6:運動会、学習発表会や校外学習、修学旅行

などの学校行事は、子どもたちが参加しやすいように工夫されている」では、93.9%と肯定的意見が90%以上となっている。

(3) 児童生徒理解に関するもの

(2)の一方で、「3:教職員は、子どもの障がいについて、よく理解している」では、87.4%(-4ポイント)と大きく減少している。また、「8:教職員は、日常の教育活動において、子どもの人権を十分に尊重している」という項目でも、86%(-2.8ポイント)となっている。「3」と「8」の項目に関しては、2年間でそれぞれ-5ポイント、-5.8ポイントとなっている。自由記述でもいくつかご意見をいただいております、引き続き児童生徒一人ひとりの理解に努めていきながら、原因を分析し改善していく。

(4) 学習指導・教育活動に関するもの

保護者項目「4:子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている(感じている)」は、71.6%と-5.2ポイントとなった。また、同項目で「わからない」と回答している保護者が21.9%(昨年度より7ポイント増)おられることから、お子様の授業の様子によりわかるように、学校と家庭と共有できる取り組みが必要である。

教職員の「10:教員間で授業見学をし、授業方法等について検討する機会がある。」に関しては、62.8%(+6.4ポイント 2年間で+12.4ポイント)と着実に肯定的意見が増えてきている。教職員項目「10」に関しては様々な取り組みを行っており、例として指導教諭が学部関係なく授業に入ることや、初任者等とは授業研究も一緒に行っている。また、授業検討では、学習指導要領を根拠とした検討の流れを教頭や指導教諭が作っており、その検討内容をまとめた事後報告のニュース配信などがある。教職員間での授業見学だけでなく、学習指導要領を元にした授業づくり・授業の見方・授業の検討の視点を深めるものとなっている。さらに、初任者等を中心に、教員の学部間交流(登校から下校まで、他学部で指導に入る)も実施しており、自学部だけでなく他学部を1日体験することも行っている。今年度の良さを継承しながら、今後も引き続き授業見学・授業方法等の検討のあり方などを考えていく。

(5) 情報提供に関するもの

「5:学校は、教育情報について、提供の努力をしている」は、87.4%(-0.6ポイント)、「13:学校はホームページや緊急連絡システムを通して、情報をわかりやすく発信している」では、91.7%(-2.7ポイント)となっている(教職員 96.2% +2ポイント)。自由記述からは、学校での普段の様子のある情報発信や、わかりやすい文面を求める声がある。

(6) 道徳教育・人権教育に関するもの

保護者は「7:学校は、子どもの発達段階や実態に応じて、生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている」で肯定的意見が86.3%(+2ポイント)、教職員は「すべての教育活動において、人権尊重の姿勢に基づいた支援・指導がおこなわれている」で肯定的意見が84.0%(+1.9ポイント)となっている。また、教職員の「6:カウンセリングマインドを取り入れた生活指導を行っている」では、今年度87.8%(4年間で+14.5ポイント)となっている。全教職員で、お互いに助言しあえる同僚性を意識していくよう取り組んでいるが、成果が少しずつ表れてきている。引き続き、児童生徒への道徳教育・人権教育はもちろん、教職員の支援・指導をさらに見直していく。

(7) 進路指導に関するもの

保護者項目「9:学校は子どもの将来の進路や職業などについて、発達段階や実態に応じて適切な指導や助言を行っている」では、全体で71.6%(-5.2ポイント)となっている。内訳を見ると小学部61.3%(-7.7ポイント)、中学部83.4%(+7.4ポイント)、高等部80.4%(-7.6ポイント)となっている。これまで高等部段階を中心に進路等に関してお伝えしていたが、現在中学部段階から知る機会を増やしていること

が要因と考えられる。小学部段階からの知る機会の設定も検討していく。一方高等部では、自由記述の中で「具体的な内容のわかりにくさ」をご指摘いただいているものもあった。引き続き、発達段階に応じた進路指導、説明・共通理解をはかっていきたい。

(8) いじめに関するもの

保護者対象「10:学校は、いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」、教職員対象「7:いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる」に関する項目は、保護者の結果は肯定的意見が53.6%(-4.5ポイント)、教職員は71.8%(+5.1ポイント)となっている。ただし、保護者の「わからない」の回答が41.7%(+2.7ポイント)であり、その他の項目と比べると突出して多くなっている。教職員へは、「防止に関する取り組みや対応方法(「学校いじめ防止基本方針」)については認知が進んできたが、保護者にもさらに周知を図っていく。なお、現時点ではいじめについては確認ができていないが、今後も早期発見・早期対応を心がけていく。

(9) 学校教育への保護者の参画に関するもの

「11:この学校の授業参観や学校行事等に参加したことがある」は、95.0%(-0.5ポイント)と維持しているが、「12:学校では、PTA活動が活発に行われている」は、76.6%(-2.1ポイント)となっている。参画の中身については本アンケートからは十分に把握することはできないが、出席人数や活動の制限がある中での実施ではあった。引き続き、授業参観や各行事等について工夫していく。

(10) 学校組織に関するもの

教職員項目「1:学校の教育活動や教育計画の作成にあたって、教職員で話し合っている」では、肯定的意見が82.1%(-1.9ポイント)となっている。個別の指導計画・支援計画に関しては、「21:作成」や「22:開示、説明」というそれぞれの項目で、教職員の肯定的意見が91.0%(+1.9ポイント)、95.5%(±0ポイント)と90%を維持している。また、教職員の「2:教育課程の編成にあたって、学習指導要領の趣旨が生かされている」が75.0%(-1.3ポイント)、「3:教育活動にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」では、79.5%(±0ポイント)と維持している。

「コンピューター等のICT機器が各教科の授業などで活用されている」が93.6%(3年間で+17.5ポイント)であり、実際授業等の中で、ICT機器を活用する機会が年々増えている。しかし一方で、新設の保護者項目「学校は1人1台端末を効果的に活用している」では、肯定的意見が34.5%、「わからない」が54%となっている。学校の取組みの情報発信とともに、さらに校内での有効な取組みの共有や、効果的な活用についての研修などを進めていく。

「13:教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、学校経営に教職員の意向が反映されている」については、昨年度からさらに下がり44.9%(-4.5ポイント)である。また、「24:学年・学部・分掌において、業務の効率化や平準化を行っている」では55.1%(-2.6ポイント)とこちらも低い。業務の効率化や平準化については色々な場面で進めているが、実感まではいっていない様子である。これらの項目には複数の要素が盛り込まれているため、評価が低い原因については他のアンケート等で確認をしている。現在は校務分掌の分担の見直し等も進めている。

「17:研修・研究に参加した成果を他の教職員に伝える機会が設けられている」は、54.8%(-5.8ポイント)となった。外部での研修が戻りつつあるが、共有の場面は以前に比べると少ない。一方で、「16:経験の少ない教職員が成長していけるよう校内研修等、工夫がされている」が62.2%(3年間で+8.7ポイント)と少しずつであるが改善されてきている。

(11) 教育環境に関するもの

保護者項目「14:学校給食の食材や献立・給食だより・給食のブログは、配慮・工夫されている」では、

93.5% (+0.2 ポイント)と毎年 90%以上の高評価である。一方で 教職員の「15:この学校では、児童生徒の教育環境が整備され、施設・設備の拡充が見通しをもって計画されている」では、44.2% (+3.2 ポイント)であり、微増ではあるものの依然低い。施設設備に関しては、異常が出る前に早期発見・改善ができるように、日々の点検を引き続き行っていく。

(12) その他、特記事項

昨年度新設された保護者項目「15:学校は地域とのつながりや交流の機会を設定している」では、+6.5 ポイントの 69.4%となっている。コロナ禍でできていなかった交流等が少しずつ再開し、またこれまでなかったオンラインでの交流も実施している。

(13) 新設の項目について(既述)

新設の保護者項目「学校は1人1台端末を効果的に活用している」では、肯定的意見が 34.5%、「わからない」が 54%となっている。学校の取組みの情報発信とともに、さらに校内での有効な取組みの共有や、効果的な活用についての研修などを進めていく。